

気ままに ブックトーク！

報告「ブックカフェに参加！」



2025 年 10 月 4 日（土）10:00～15:00、麻生市民館で開催されたブックカフェに、岡上分館図書室ひろばプロジェクト「気ままにブックトーク」参加者 2 人が出店しました。麻生市民館の市民自主企画事業「おしゃべりな図書館～本と出会う、人と出会う～」(企画運営団体：図書館ってなんだろうの会) の第 2 回として開催された企画です。

【当日紹介した本】

関川夏央『家族の昭和 私説昭和史 2』（中公文庫、中央公論新社、2024 年）／新谷隆史『食が動かした人類「250」万年史』（PHP 新書、PHP 研究所、2023 年）／月刊『望星』編集部編『あの日、あの味 「食の記憶」でたどる昭和史』（東海教育研究所・東海大学出版会、2007 年）／保坂正康『昭和の怪物 7つの謎』（講談社現代新書、講談社、2018 年）／野村育世『蜘蛛 なぜ神で賢者で女なのか』（選書メチエ、講談社、2025 年）／金井真紀『虫ぎらいはなおるかな 昆虫の達人に教えを乞う』（理論社、2019 年）／岸由二『生きのびるための流域思考』ちくまプリマー新書、筑摩書房、2021 年）／橋本淳司『2040 水の未来予測』（産業編集センター、2025 年）

私たちは、次回（11 月 28 日）の宣伝を兼ねて、「戦後 80 年」に関連した本をそれぞれ持っていき、食、家族、政治、自然と人（虫、水）といった切り口の本を紹介しました。なかには戦後 80 年よりはるかに長い人類史を扱ったものも！ また、歴史をふまえて今後どうなるという近未来 SF も。当日は、麻生図書館の出入り口前のスペースに 10 店が出店。通りかかって足を止めてくれた人とおしゃべりしました。

意外と手にとってもらえたのは、『虫ぎらいはなおるかな』。タイトルも虫以外がひらがなで、イラストレーターの著者のイラストを活かしたほんわかしたトーンの表紙。著者が虫ぎらいを克服するのに、昆虫学者、昆虫をモチーフとした作品をつくるアーティスト、保育の研究者など「昆虫の達人」にインタビューした内容に、著者のすなおな印象を吐露した文章でとても読みやすいです。

本はたくさんもっていったほうがいいのか、おしゃべりしたい対象をしぼったラインアップがいいのか etc. etc. ブックカフェの内容や展示方法など、可能性をあとで意見交換しました。岡上分館でもブックカフェ、やれたらいいですね！ やりましょう！！



次回は、11 月 28 日(金) 13:30-15:30

【内容：戦後 80 年で 1 冊】(ドキュメンタリー、小説、写真集、マンガなどジャンルを問わず 1 冊持参)。次々回 2 月に取り上げたいテーマも相談します。

図書室ひろばは、予約なし・参加費無料の、気軽にみなさんが集える場所です。事業をやってみたい方は、ぜひ岡上分館までお問い合わせください。